

地理歴史科

日本史B

I. はじめに

3年次の日本史Bでは、2年次の日本史Aで学習していない時代を進めます。必修選択科目の5単位日本史Bで戦後史～原始・古代～中世～近世と講義形式で通史を進めていきます。自由選択科目の2単位日本史演習では主に問題演習や単語テストを軸に講義解説を行います。2年生での既習時代である近代の復習から開始し、5単位日本史Bの既習範囲の復習として問題演習を進めます。2学期後半からは共通テスト対策等を行います。

II. 勉強方法

「大きな歴史の流れ」と「細かい事象」の確認の繰り返しを念頭に置いて…

ステップ①時代の全体像(イメージ)を理解 ②基本用語の確認と定着 ③問題演習 の繰り返し

何周かすると、また違った深い時代像が見えてきます。それぞれの目的に合わせてツール(教科書や参考書、プリント、一問一答、問題集、過去問)を活用しましょう

ステップ① 歴史の流れ、因果関係をつかむ・時代の全体像をつかむ

授業プリントや教科書をボロボロにしてください。教科書は調べるために引くのではなく、順番を追って文章を通読してください。教科書が苦手な人は語り口調系の参考書でも構いません。マンガ『日本の歴史』でも構いません。いずれにせよ歴史の流れという幹を身につけないと、後で細かな枝葉の部分を理解・暗記するのに、膨大かつ無駄な作業を費やす事になります。

ステップ② 歴史用語・内容の確認

①で流れをつかめたら、暗記は必要です。授業プリントや一問一答などを活用しましょう。ただし、②の勉強をするときは大きな歴史の流れを意識しながらすること。これをすれば様々な角度から問われる実践問題にも対応できるようになります。時代ごとに区切って①と②を行ったり来たりして、プリントの用語や、一問一答の標準レベルの用語で6割程度が思い出せるようになったら(漢字で書けなくてもいいので)、どんどん③のステップに進みましょう。

ステップ③ 実践的な問題演習(アウトプット)

既習範囲は早く③まで到達しましょう。日本史の場合は同じ問題集を何周もするのではなく、様々な角度からの問いに対応できるようになるために2周くらいしたら異なる問題を解くのがオススメです。できなかつた問題に対してはステップ①や②の視点で再確認。ついでに周辺知識も再確認しましょう(これが有効です)。1点に泣きたくない人は問題のリード文も時代の流れを確認するためにしっかり読む、記号の選択問題であっても練習の時は漢字で記述する、など手を抜かず真摯に取り組みましょう。

既習範囲は③までどんどんやりこむ。なお、1学期中は模試の出題範囲に追いつかない事がありますが、模試のために無理に先取り学習を行う必要は全くありません。余裕があればマンガや参考書などで①を軽く進めても良いと思います。

III. 評価の観点

○知識・技能の習得(体系化、汎用性)

我が国の歴史の展開に対する関心や課題意識を高め、授業及び提出物で自らの関心や課題意識を積極的に表現することができ、文字史料などの資料を正確に読み取り、授業で習得した知識と組み合わせることができるか。

○思考力・判断力・表現力の育成(思考力、判断力、表現力)

各時代の重要な問題やテーマに関して、多面的、多角的に考察し、その過程や影響を文章及び口頭で適切に表現できているか。

○学びに向かう力・人間性(実践力、協働力)

我が国の歴史の展開について主体的・総合的に理解し、習得した知識を授業中の協議や定期考査、提出物等に活用することができるか。